

評価実施年度	令和 5 年度	学校名	大分県立 宇佐 高等学校	
学校教育目標	「剛健・友愛・創造」の校訓が目指す、健全なる心身と人権意識を持った、個性豊かな生徒を育成する。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 極めて良い。 スクール・ミッション等が現状を踏まえて策定され、育てたい生徒の姿などがはっきりと描かれている。 スクール・ポリシーを基に教育活動を組織的に行い、地域に根ざした進学校としての役割を果たすことを期待する。 同じく将来を担う人材の育成に尽力されることを期待する。 スクール・ポリシーの策定にて、運営委員会等で説明をして意見を募りつつ修正を行い、合意形成を重ねている。 	<ul style="list-style-type: none"> スクール・ミッション、スクール・ポリシーに則り、校長のリーダーシップの下、学校運営を推進していく。 教職員は基より、保護者、生徒、中学校、地域と共有しながら、定員確保や授業改善等、重点課題解決に向けて教育活動を実践していく。
	PDCAサイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどPDCAサイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 良い。 教職員、生徒等へのアンケート調査を基に現状把握、重点目標達成状況の確認や分析、改善が行われている。 アンケート結果より設定された目標はほぼ完全に達成されており、効果的な取組がなされてきたことが推察される。 達成(成果)指標が高設定だったとの認識が示されており、次年度はより適切な指標が設定されることを期待する。 数値では把握できない事柄についても自由記述から多くの課題が把握されており、改善に生かすことを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事や企画が終了するたびに、生徒及び職員にアンケートを実施し、改善点について早い段階で把握すると共に、次年度への改善策を積み重ねていく。 求める目標と現実の結果として出た指標とのギャップについて再度検討し、適切な達成指標を設定していく。
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 <ul style="list-style-type: none"> 情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) 生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 極めて良い。 生徒作成の宇佐高通信やPR動画は、生徒の探究の姿や学習を描くことで本校の特徴を発信している。 上記について、地域の魅力を紹介するものもなっており、社会貢献の側面からも高く評価できる。 生徒の学習活動のフィールドとして地域の諸資源が生かされている。 部活動等を通じて近隣の学校の児童・生徒と交流することは双方にとって有益である。 上記は生徒の学習意欲の向上にも良い影響を与えている。 充実した広報活動だけでなく、オープンスクールにおいて中学校別の座談会に取り組みされており、高く評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の活躍や、日頃の活動等、本校で学ぶ生徒の姿を一層地域や中学校へ発信していく工夫を行う。 生徒の作成した学校紹介動画を中学生に見てもらう機会を設けると共に、SNSを通じて能動的に発信する。 宇佐市観光動画を公共施設等のロビーで公開できないかなど、積極的に働き掛けを行う。 中学生と高校生が直接対面で実施する企画を検討する。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 <ul style="list-style-type: none"> 学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	<ul style="list-style-type: none"> 良い。 学校として授業改善に重点を置いて取り組んでいる。 生徒の「授業が面白い」「わからない自分に気付いてくれる」等の感想より、教員の丁寧な指導の様子が伺える。 個々の生徒に応じた対応に尽力している点は評価できるが、授業によっては目配りが不十分な時がある。 細やかな配慮が隅々にまで浸透しているとはいえず、全教科において学力に応じた対応が進むことを期待する。 公開授業が頻繁に実施され、指導主事招聘研究授業が行われる等、授業改善に対する取組が積極的である。 ICTが広く用いられ、生徒の関心を高めつつ、教育効果の高い取組になるよう工夫している様子が伺われる。 生徒に対して課される課題も学習意欲を高めるように工夫されている。 本校の特色である探究的な学びを生徒は肯定的・好意的に受け止めている。 生徒の「課題が多い」「課題提出が目的になりがち」等の感想より、学習の意義などを丁寧に説明する必要がある。 上記について、教科等の学習が進路指導(キャリア教育)と連動していることを理解させることも重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTについては、生徒が思考力を深められるような活用を今後も研究していく。 学習習熟度別指導においては、さらに効果的な取組になるように、それぞれのグレードに応じた指導内容の工夫や課題の内容の精査等に取り組んでいく。 地元の人材や観光資源を活用し、地域の抱える強みや弱み、課題や成果等を深く考察していく探究活動を継続して実践していく。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 極めて良い。 SSWやSCと教職員の連携によるケース会議を定期的に開催して必要な支援に繋げており、非常に素晴らしい。 面談や丁寧な進路指導等、生徒1人1人の状況に応じた対応が学校全体で取り組まれている点が優れている。 生徒は心配事や困ったこと等は気軽に教員に相談できると考えており、学校に対する安心感を持っている。 生徒はわからないことを丁寧に説明してもらえると考えており、教師に対する関係性も良好だと感じている。 生徒は上級生と下級生の関係も含めて基本的に「仲が良い」と捉えており、学校を忌避する傾向は見当たりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> きめ細かい指導を通じ、生徒の悩みや困りをいち早く発見し、対応する体制を継続していく。 生徒の情報が一部の職員間で留まることがないように、組織的に情報共有が図れる仕組みを職員間で再度確認する。 学校が楽しいと思える日常の教育活動と共に、効果的な学校行事を設定し、生徒の自己肯定感や達成感を醸成する。
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	<ul style="list-style-type: none"> 良い。 学校内の古い樹木の管理について、早急かつ次年度以降の予算化も含めて適切な対応がとられている。 交通安全について、元在校生の保護者による啓発的な講演を行い、交通安全への意識づけに取り組んだ。 危機管理マニュアルの表紙に対応時の情報伝達の基本原則を明示し、非常時の行動原則の統一が図られた。 上記の原則に則って、危機対応がスムーズに実施できるかの検証を行うことを期待する。 本校の立地条件等の特性に基づくリスクの検討状況が不明であり、不測の事態を想定した備えを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自転車や単車等の交通事故を未然に防止するため、定期的に安全教室や自転車点検などを実施する。 保護者の生徒送迎の車の運転について、重点的に啓発を行い、近隣と調和のとれた体制を構築する。 改訂した危機管理マニュアルを教職員で共有し、実効性を高めていく。
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 <ul style="list-style-type: none"> 会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しを図られているか。 組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> スクール・ポリシーの策定を通して学校の重点事項の焦点化を行い、業務の精選(1分掌1削減)も進めている。 教職員アンケートにより、校時の見直し等の具体的な対策をとっている。 上記について、他の検討した改善案も具現化して着実に実行することで、働き方改革につなげることを期待する。 探究的な学習やSTEAM教育の推進に伴う指導時間の増加という課題に対し、ポリシーに照らした調整を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1分掌1削減を行い、実際に運用していく上でさらに改善できる点を検討していく。 業務の平準化を常に心掛け、一部の職員へ業務が集中しないよう確認しながら、学校運営を行う。 部活動指導員や外部指導者等の人材を活用しながら、部活動の活性化を推進する。
	学校課題の解決に向けた取組等	○入学定員の確保	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動について、中学生や保護者、中学校に届くような方法の工夫(通信の発行等)がなされている。 生徒の本校への満足度は高く、学力的な成果も出ており、このことが積極的に発信され伝わることを期待する。 オープンスクールにて中学生等に本校生徒が学校の様子を紹介することは、教育効果を示す点で重要である。 上記について、特に中学校教員が卒業生の変容を見取る機会として活用されることを期待する。 地域間競争の激化等、環境は非常に厳しいが、選ばれる学校となるために学力向上へのさらなる取組を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の中学校の上位者からも選ばれる学校となるように、中学校の職員や中学生に働きかけられるようにすることはもちろん、地域の住民に対しても宇佐高校の魅力アピールしていく。 進路実績の向上について、特化した広報の機会を設ける等、一層の取組の強化を行う。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> スクール・ポリシーの策定を通して、宇佐高校として卒業までに育てたい力や行いたい学びの焦点化が図られている。 教育活動の一つの柱として探究的な学習が積極的に展開されており、その成果も現れてきていると思われる。成果と課題の検証も生徒の実態を踏まえて丁寧にされており、今後教育活動がさらに発展していくことを期待する。 生徒から学習に対して前向きな様子が見て取れることが最も優れた特長であるように感じる。特に中学校時代に比べて自分の進路を主体的に考え、進んで学業に取り組むようになったと語った生徒たちの姿は、本校の指導の成果の表れだといえる。 スクール・ポリシーに示された、カリキュラム・ポリシーやグラデュエーション・ポリシーは実現しつつあると思えるため、生徒募集では生徒が伸びる学校であることを強調していただきたい。 生徒の自主性を重んじ、学習と部活動の両立や独自の探究学習への取組等、生徒を中心に据えた教育活動が展開されており、生徒自身の満足度や自己肯定感も非常に高い印象を受けた。 特に教職員の生徒への丁寧な関わりや声掛けは大きな安心感となっていることが見て取れる。 進学校でありながら上記の取組ができているのは、地方の教育機関の強みともいえるので、本校の魅力として外部へもしっかりとアピールし、定員確保も含めた安定的な学校運営に取り組むことを期待する。また、学習時間の向上もぜひPRしていただきたい。 			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初の学校経営方針やスクール・ミッション、スクール・ポリシーを全職員に深く浸透させ、それらと結びつけた教育活動を組織的に職員一丸となって推進することができるよう、管理職やミドルリーダーが具体的な方針を示していく。 行事や企画が終了するたびに、生徒や職員にアンケートを実施し、その意見を取り入れた改善計画を作成する。その繰り返しにより、全職員の学校運営・改革の意欲や意識の高揚を図る。 生徒会の活動や生徒の日常を紹介することで、いかに宇佐高校で学ぶ生徒が素晴らしいかをアピールしていく。SNSの活用や、直接中学生や地域の方と交流する機会を設置し、高校側から能動的に行動していく。 第三者評価により、学校の課題や改善点がより明確になった。今後の学校運営・学校改革へとつながるよう、スピード感を持って取り組んでいく。地域に根ざした進学校としての「宇佐高校」をつくりあげていく。 			